

2月放送総局長定例記者会見要旨

(1) 2021年度 国内放送の番組改定

(正籙放送総局長)

2021年度は、「新しいNHKらしさの追求」をキーコンセプトにした新3か年経営計画がスタートする年だ。重点項目に掲げた「安全・安心を支える」「新時代へのチャレンジ」「あまねく伝える」「社会への貢献」を、放送・サービスで実現していく。

【安全・安心を支える】

「安全・安心を支える」では、全ての人に「安全・安心」と「正確・良質」で多様なコンテンツを、放送やインターネットを活用し届ける。

総合テレビの金曜日は、大阪拠点放送局のBCP強化を強く意識した編成。日中の大半を大阪発とすることで、渋谷の放送センターのバックアップ機能や、地域情報発信の充実・強化を一層図る。「ニュース きん5時」、京都と全国の小京都を生放送でつなぐ「京コトはじめ」は、ともに大阪拠点放送局が制作する。総合テレビ日曜午前10時台は、「明日をまもるナビ」を新設する。全国の放送局が取材する防災・減災・復興の動きを中心に、災害列島のサバイバルを考える。

【新時代へのチャレンジ】

「新時代へのチャレンジ」として、これまでの波中心の編成からジャンル別にコンテンツを管理する。重複する番組を整理・削減。高品質なコンテンツを合理的なコストでお届けし、放送・サービスの価値を最大化する。

総合テレビは、ゴールデン・プライムの時間帯を「新しいNHKらしさを追求する番組開発ゾーン」と位置づけ、年間50本規模で開発番組などを制作。若手の発想を生かし、次代の看板番組の開発に取り組む。Eテレでは、主に小中学生向け教育コンテンツ「NHK for School」をさらに利用してもらうため、学校から帰宅する午後5時台にも放送枠を新設する。月曜午後7時台は、SDGs番組シリーズ「ひろがれ！いろとりどり」を新設。映像資料を活用したクイズ番組や、子どもたちが社会の課題と向き合うプレゼンテーション番組を放送する。また、「NHK for School」では、新学習指導要領に対応し、問題発見や解決能力を育むSTEAM教育の番組「ツクランカー」を新設する。

BS1では、午後10時から放送する「国際報道2021」を、総合テレビの深夜にも放送する。

BSプレミアムの火曜午後9時台には、2000年から2005年まで放送し大きな反響を呼んだ「プロジェクトX 挑戦者たち」の4Kリストア版を放送する。

BS4Kは、BSプレミアムの番組の4K一体制作をさらに進め、同時放送枠を拡充する。

【あまねく伝える】

「あまねく伝える」では、Eテレの番組とインターネットコンテンツの連携を強化し、若い世代の接触拡大を図るとともに、既存の番組に手話をつける取り組みなど、誰もが楽しめるユニバーサル放送・サービスをより充実させ、共生社会の実現を目指す。

【社会への貢献】

「社会への貢献」では、NHKの強みである全国ネットワークを最大限に生かし、地域の発展を後押しする。総合テレビ午前10時台の「NHK地域局発」を継続するとともに、午後1時台の「列島ニュース」を15分拡大、各地の最新情報をきめ細かく発信する。

BS1では、土曜午後5時台に「地域局連携開発ゾーン」を新設し、複数の地域局が協力し課題の解決策を探る番組やスポーツと地域のつながりを描く番組など、新機軸の開発番組を編成する。平日午後11時台「BSニュース4K+ふるさと」は、地域発のレポートを積極的に全国に伝える。

また2021年度は、東京、北京で2つのオリンピック・パラリンピックが予定されている。“東京2020”は、新型コロナウイルス感染防止に取り組みながら開催を目指す、過去に例のない大会になる。最高水準の放送・サービスの質を堅持し、ウィズコロナを意識し、状況にふさわしいサービスを総合テレビ

やBS1を中心に提供する。

BS8Kは、未来に残すべき文化財や芸術を最高水準の映像で記録し、社会貢献の役割を果たす。

(若泉副総局長)

【ラジオ】

続いて、私からラジオについてお伝えする。

ラジオ第1放送は、安全・安心を担う音声基幹波として、必要な情報を的確に発信していく。また、平日午後8時・9時台を、幅広い世代が楽しめるエンターテインメントゾーンと位置づけ、「さくらひなたロッチの伸びしろラジオ」など、新たなパーソナリティーを起用した番組を編成する。「聴き逃し」サービスについても充実させる。

ラジオ第2放送は、生涯学習波として、多様な知的欲求に応える番組を編成する。新学習指導要領の実施に伴い、英語番組「基礎英語シリーズ」の内容を刷新、強化するほか、身近なコミュニケーションに役立つ「ステップアップ ハングル講座」を新設する。インターネットサービスとも連携し、“いつでも”“どこでも”学べる機会を提供します。

FM放送は、さまざまな音楽・芸能ジャンルの番組をバランス良く編成し、リスナーの期待に応える。火曜午後11時台は、GREEENのHIDEさんがメインパーソナリティーを務めるトーク番組、日曜午後9時台は、「クイーン」の魅力を1年にわたって再発見する「ディスカバー・クイーン」を新設する。

【朝ドラ放送開始日について】

次の連続テレビ小説「おかえりモネ」の放送開始日についてお知らせする。初回放送は、5月17日。全体の放送回数については決まっていない。なお、現在放送中の「おちょやん」については、5月14日が本編の最終回、15日が最終週の振り返りを予定している。引き続き、お楽しみいただきたい。

(正籙放送総局長)

【データ放送、ネット】

最後に、データ放送やインターネットサービスについて申し上げる。

データ放送サービスは、安全・安心情報を引き続き充実させる。スポーツイベントでは、試合や競技の結果、見どころなどを伝え、皆様の関心に応える。BS4K・8Kでは、要望が多かった、映像の枠外に表示する字幕サービスを提供する。

インターネットサービスでは、「NHKプラス」で、大阪拠点放送局など地域放送局で放送した番組の一部も配信する。また、「NHK NEWS WEB」「NHKスポーツ」「NHKニュース・防災アプリ」「NHK健康チャンネル」など、関心の高い分野で、公共性の高いサービスを提供する。

2021年度は、「新しいNHKらしさの追求」、そして、将来にわたって信頼され必要とされる「公共メディア」への進化を目指すNHKにとって、大胆に改革を進める年となる。視聴者の皆様としっかり向き合い、これまで以上に信頼をいただけるよう、正確で公平・公正な情報の提供、豊かで質の高い放送・サービスを追求していく。

(詳細は報道資料を参照)

(2) 2021年度 番組キャスターについて (正籙放送総局長)

2021年度の各番組のキャスターが決まった。主な番組のキャスターについて、ご説明する。

まず、主なニュース報道番組について。

「おはよう日本」には、フレッシュなキャスターが新たに加わる。5時台には、山内泉アナウンサーと江原啓一郎アナウンサー、土曜日曜祝日には、川崎理加アナウンサー、スポーツコーナーには、堀菜保子アナウンサーが加わる。いずれも、入局4年目から5年目の若手の起用だ。

「ニュースウオッチ9」は、新たに田中正良記者が担当する。田中記者は、ワシントン支局や中国総局など海外での取材経験が豊富で、現在は国際部の取材統括を務めている。和久田麻由子アナウンサーとともに、ニュースの背景を掘り下げる。また、スポーツコーナーもリフレッシュする。これまでスポーツ現場での取材経験が豊富な田所拓也アナウンサーが担当する。

毎週火曜日から木曜日の夜10時にお送りしている「クローズアップ現代+」は、新たに、井上裕貴アナウンサーと保里小百合アナウンサーがお伝えする。ともに堪能な英語力を生かし、“ウイズコロナ”の中で日本と世界が直面する最前線のテーマを、深い取材で掘り下げていく。

続いて、総合テレビのキャスターが交代する主な番組について。

平日朝8時15分からの「あさイチ」は、新たに鈴木奈穂子アナウンサーが担当する。博多華丸・大吉さんとともに、日々の生活に役立つ情報や全国各地の話題をお伝えする。

毎週水曜日の夜7時半から放送している「所さん！大変ですよ」の司会は、新たに庭木櫻子アナウンサーが担当する。

毎週日曜午前10時5分からの新番組「明日をまもるナビ」。担当は「チコちゃんに叱られる！」でおなじみの塚原愛アナウンサー。災害が相次ぐ中、命と暮らしを守るための情報を、楽しく、分かりやすくお伝えする。

続いて、大阪拠点放送局から全国発信する番組について。

毎週金曜午後2時台に放送する新番組「京コトはじめ」は、森田洋平アナウンサーが担当する。世界を魅了する京都の旬の絶景や名所の魅力を現地からの中継でいきいきとお伝えする。

毎週金曜午後4時50分から放送する新しいニュース情報番組「ニュース きん5時」では、「ニュース7」や「クローズアップ現代+」などのニュース・報道番組を担当し、多くの災害報道・緊急報道に携わってきた武田真一アナウンサーと、土曜日曜祝日の「おはよう日本」を担当してきた石橋亜紗アナウンサーがキャスターを務める。

(詳細は報道資料を参照)

(3) 2021年度 国際放送の番組改定 (小池副総局長)

国際放送の2021年度の番組改定について。NHKの国際放送は、日本から発信する公共メディアとして、正確で公平・公正な情報を日本の見方やアジアの視点を交えて発信していく。NHKワールドJAPANでは、ニュースと番組の両面で、新型コロナウイルスによる危機を乗り越えるための手がかりとなる情報や持続可能な社会の実現に向けた取り組み、日本の文化や地域の魅力などを発信していく。主な新番組をご紹介します。

「Zero Waste Life」は、SDGs関連の番組として、「捨てない暮らし」をテーマに、地球の未来に向けてヒントとなるような人々の営みを紹介する。

「BOSAI: Science that Can Save Your Life」は、自然災害が多い日本で蓄積されてきた防災・減災に関する知識や研究を伝える。

「Japan's Top Inventions」は、世界的に知られる日本の技術や製品の開発秘話を伝えてきた番組で、放送時間を15分から28分に拡大する。

「Magical Japanese」は、日本語の多彩さと奥深さを伝えていく。

(詳細は報道資料を参照)

(4) 東日本大震災10年関連 (小池副総局長)

12月の会見でも触れたが、新たに決まった主な企画について、お伝えする。

まず、NHKと民放キー局5社が、共同で取り組む、防災プロジェクト。共通のキャッチフレーズ『キオク、ともに未来へ。』を用いて、各局がドキュメンタリーや、レポートなどを制作する。未曾有の経験から学び、次世代へ繋げていくために、映像素材の相互利用など、各局が垣根を越えて協力する、TVメディアの特性を生かした取り組みだ。NHKで放送するのは、NHKと民放各局の震災取材経験者が集まり、未来の命を守るため何が必要かを考える特集番組で、3月14日に放送を予定している。

またNHKでは、3月11日はさみ、総合をはじめ各放送波で、集中的に特集番組を放送する。総合では、生放送の「ごごナマ 震災10年特集」で、西田敏行さんをはじめ東北ゆかりのゲストを招き、自らの体験や思いを語ってもらうほか、中継やVTRで、当日の現地の表情や、復興の現状とこれからの展望を見ていく。

「音楽で心をひとつに ~Music for Tomorrow~」では、震災後いち早く、音楽やメッセージで被災地を応援した国内外のアーティストたちが、今各地で頻発する自然災害やコロナ禍を前に、国境を越えて手を携えていこうと訴え、演奏を披露する。

他にも各波の特集番組で、さまざまな角度から、“あの日”と、この10年を見つめ直し、“明日へ”とつなげていく。

また、NHKプラスでは、「#震災10年」というプレイリストを編成し、ニュース、ドキュメンタリー、ドラマほか、さまざまなジャンルの関連番組を、放送から1週間、同時・見逃し配信する。また、これまで10年の間に放送してきた番組も「津波」「こども」「福島」などのテーマごとに配信する。「震災と未来展」については、詳細な資料ができたのでご覧いただきたい。

震災10年に関するNHKの取り組みに、ぜひご期待いただきたい。

(詳細は報道資料を参照)

(5) 探検！巨大ミュージアムの舞台裏 ～国立科学博物館 驚きの世界～ (若泉副総局長)

続いて、3月放送の番組から、BSプレミアムで放送する特集番組をご紹介します。

「探検！巨大ミュージアムの舞台裏 ～国立科学博物館 驚きの世界」。国立科学博物館、通称「カハク」は、歴史ある博物館であるとともに、研究者たちが最新の研究成果を展示に反映する、「進化する博物館」でもある。肉食恐竜の骨格展示や、すでに絶滅した動物のはく製などから見えてくる、知られざる科学の発見の物語をはじめ、カハクの魅力をたっぷりお届けする2時間だ。

(詳細は報道資料を参照)